

平成26年度科研費の交付内定について

科研費制度では、研究者の方々に年度当初から研究に着手していただけるよう、早期の交付内定に努めています。

平成26年度の科研費については、平成26年5月31日現在、以下の研究種目について交付を内定しています。

「特別推進研究」、「新学術領域研究(※)」、「基盤研究(S)」、「基盤研究(A・B・C)(※)」、「挑戦的萌芽研究」、「若手研究(A・B)」、「研究活動スタート支援(継続)」、「特別研究促進費(継続)」、「奨励研究」、「研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B・C)・国際情報発信強化・学術定期刊行物・学術図書・データベース)」、「特別研究員奨励費(第1回)」

(※)研究領域提案型の新規の研究領域分及び基盤研究(B・C)の特設分野研究を除く。

なお、平成26年度から、科研費の交付内定後、科学研究費助成事業データベース「KAKEN」で交付内定情報を速やかに公開しています。

平成26年度科学研究費助成事業の審査結果等の開示について

科学研究費助成事業の審査結果等については、電子申請システムを利用した電子的開示を下記の要領で行っています。

開示期間

・平成26年4月25日(金)～平成26年11月28日(金)

対象種目

・新学術領域研究(研究領域提案型)(公募研究)
 ・基盤研究、若手研究、挑戦的萌芽研究
 ※基盤研究(B・C)の特設分野研究を除く

開示内容の開覧方法

・独立行政法人日本学術振興会のWebページ「電子申請のご案内」に掲載の「研究者向け操作手引(審査結果開示用)」をご確認ください。

URL: <http://www.shinsei.jsps.go.jp/kaken/index.html>

※審査結果等の開示は、審査の結果採択されなかった研究課題及び審査に付されなかった研究課題について、研究計画調書提出時に開示希望のあった研究代表者に対してのみ行うものです。

4. 科研費トピックス

科学技術の状況に係る総合意識調査(NISTEP定点調査2013)の結果について

日本の科学技術やイノベーションの状況変化を把握するため、科学技術・学術政策研究所により、産学官の研究者・有識者に対する意識定点調査が実施(2011～2015年度の5年間にわたって実施する調査の3回目)され、調査結果が公表されています。(http://www.nistep.go.jp/archives/15733)

・「科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2013)」[NISTEP REPORT No.157, 158]

科研費制度に関する調査結果は下図のとおりですが、今回の定点調査において最も指数が上昇しているのは、科研費における研究費の使いやすさについての質問となっています。

また、科研費制度では、2011年度から研究費の基金化を導入していますが、研究費の基金化に関しての質問は2011年度から引き続き、定点調査の質問の中で一番高い値となっており、科研費制度は研究者や有識者から高い評価を受けています。

問	質問内容	大学	公的研究機関	イノベ 俯瞰	大学グループ別				大学部局分野別				
					第1 グループ	第2 グループ	第3 グループ	第4 グループ	理学	工学	農学	保健	
Q1-19	科学研究費助成事業(科研費)における研究費の使いやすさ			—									
		0.61	0.27	—	0.86	0.61	0.52	0.51	0.92	0.32	0.87	0.67	
	2011	4.5	4.7		4.7	4.3	4.8	4.5	5.0	5.1	4.1	3.8	
	2012	4.9	4.8		5.3	4.7	5.1	4.8	5.7	5.4	4.6	4.0	
	2013	5.2	4.9		5.6	5.0	5.3	5.0	5.9	5.4	5.0	4.5	

問	質問内容	大学	公的研究機関	イノベ 俯瞰	大学グループ別				大学部局分野別			
					第1 グループ	第2 グループ	第3 グループ	第4 グループ	理学	工学	農学	保健
Q1-20	研究費の基金化は、研究開発を効果的・効率的に実施するのに役立っているか			—								
		0.17	-0.08	—	0.08	0.19	0.26	0.14	-0.18	0.13	0.46	0.24
	2011	7.1	6.7		7.8	6.8	7.0	7.1	8.0	7.0	6.7	6.9
	2012	7.2	6.9		7.8	6.9	7.2	7.1	7.9	7.0	6.9	7.0
	2013	7.3	6.6		7.9	7.0	7.3	7.2	7.8	7.1	7.1	7.1

※指数は4.5～5.5でほぼ問題はなく、5.5を超えると状況に問題はないことを示しています。

※大学・公的研究機関グループ(大学・公的研究機関の長や教員・研究者から構成)にのみ質問を行っているので、イノベーション俯瞰グループ(産業界等の有識者や研究開発とイノベーションの橋渡しを行っている方などから構成)の集計は空欄となっています。

小・中・高校生のための
プログラム



K A K E N H I

「ひらめき☆ときめきサイエンス」とは、「科研費」により行われている最先端の研究成果に小中高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

平成25年度「よく工夫されたプログラム」の事例紹介



『ニホンミツバチっておもしろい！ ～伝統養蜂の世界へようこそ～』

溝田 浩二

宮城教育大学・環境教育実践研究センター・准教授

採蜜体験、蜂蜜の試食、キャンドル・ハンドクリーム・クレヨン作りなどの体験を通じて、ミツバチからの恵みを利用する知恵を学びました。



『未来の外科医へ、最先端脳神経外科手術を シミュレーター経験してみよう!』

鶴嶋 英夫

筑波大学・医学医療系・准教授

シミュレーターを使って採血や血管内手術などの臨床技法を体験し、テクノロジーの進歩に伴い急速に発達した脳神経外科手術について学びました。



『目に「見えない」しょうがいをもつ人と、 会って、話して、遊んでみよう』

吉谷 優子

日本赤十字北海道看護大学・看護学部・講師

精神障がいを持つ人との交流を通して、障がいの多様性と必要な支援について学び、障がいがあっても普通に暮らせる「ノーマライゼーション」について考えました。

平成26年度も、夏休みを中心に、多くの体験プログラムを実施します。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」の詳細は、<http://www.jsps.go.jp/hirameki/index.html> をご覧ください。